—広　告—

KIT
キャンパス
レポート236

文・杉村裕之

# ロボカップ世界大会準優勝。人を笑顔にするロボットを。

金澤 祐典（かなざわ　ゆうすけ）
金沢工業大学
工学部
ロボティクス学科四年
青森県立青森西高等学校出身

フランスで今年七月開かれた世界最大のロボット・人工知能競技会「RoboCup2023」。世界四十五カ国から約二千五百人が集った中、金澤さんがリーダーを務めたKIT出村研究室の「Happy Robot」チームが、近い将来、家庭で人間をサポートする生活支援ロボットの部門で見事、準優勝を勝ち取った。

「寿司の取り合いで起きた夫婦げんかをロボットが楽しい音楽を流して仲裁し、二人の表情が笑顔になったら全員で踊るというストーリーで製作しました」

それを可能にするため、「Happy Robot」には対話型AIサービス「ChatGPT」の中核技術である「Transformer」を複数、搭載。TransformerベースのAIを使って、変化する人の表情や瞬時にテキスト化した会話の文脈から人間の喜怒哀楽を判定し、動作を制御するプログラムを組んだ。審査のデモンストレーションには、指導した出村公成教授夫妻が夫婦役で登場し、ミュージカル風に仕立てた展開に、会場は大きな笑いと歓声に包まれた。

「世界一を狙っていたので、審査発表の時は正直、ため息が出ました。しかし、今は優勝できなくてよかった、まだまだ力不足の自分に気づくことができて本当によかったと思っています」。弾けて当然の年齢にもかかわらず、老成したような謙虚さに思わず舌を巻いた。

金澤さんは、小学生の時、祖母の家で偶然、映画『アイ，ロボット』を見て以来、いつかは自分の手で暮らしに役立つロボットをとの夢を温めてきた。進路の相談を受けた両親は、「本気でやるなら結果を出し、四年間を棒に振るな」と、あえて辛口の激励で送り出した。

入学早々、新型コロナウイルス感染症の流行に翻弄されたが、憧れだった夢考房RoboCup@Homeプロジェクトで技術を磨き、経験を積んだ。リーダーとなった三年次のジャパンオープンでは史上初となる完全優勝を飾り、二年次に参加したアジア大会で最下位に沈んだ屈辱を晴らした。私が強く感じたのは、チームの技術力もさることながら、メンバーのやる気を巧みに引き出し、勝利に向けて結束、牽引していった彼の人間力である。

「人の感情に寄り添い、人を笑顔に変えるロボットを作りたい」。夢の実現へ大学院進学を両親に切り出したところ、「そういうと思っていた」と、待ちかねていたような口ぶりだったそうだ。わが子の成長をかみしめる喜びが、ぎゅっと詰め込まれた愛の言葉だと思った。

金沢工業大学
石川県野々市市扇が丘七-一
電話番号（〇七六）二四八-二〇〇